

草津白根山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

草津白根山では、3月6日16時頃から湯釜付近を震源とする火山性地震が増加しています。湯釜火口等の噴気の状態や地殻変動には特段の変化はみられません。

引き続き、山頂火口から概ね500mの範囲では、火山灰の噴出等に警戒してください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

平成21年4月10日に噴火予報を発表し、警戒事項を切り替えました（噴火警戒レベル1（平常）継続）。その後、予報警戒事項に変更はありません。

活動概況

- ・地震や微動の発生状況（図1、図2、図3 - ）
火山性地震の発生回数は少ない状態で経過していましたが、3月6日16時頃から増加し、6日16時から7日14時までに32回観測されました。震源は湯釜付近の浅い所に分布しています。火山性微動は観測されていません。
- ・噴気など表面現象の状況
現在、噴気の状態は、奥山田（湯釜の北約1.5km）に設置してある遠望カメラによる観測では、視界不良のため確認できていません。また、逢ノ峰（湯釜の南約1km）に設置してある遠望カメラによる観測では、噴気は認められません。
湯釜火口内に設置してある東京工業大学のカメラでは、火口内に噴気は認められません。
- ・地殻変動の状況（図3 - ~ ）
GNSS^注連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

注）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

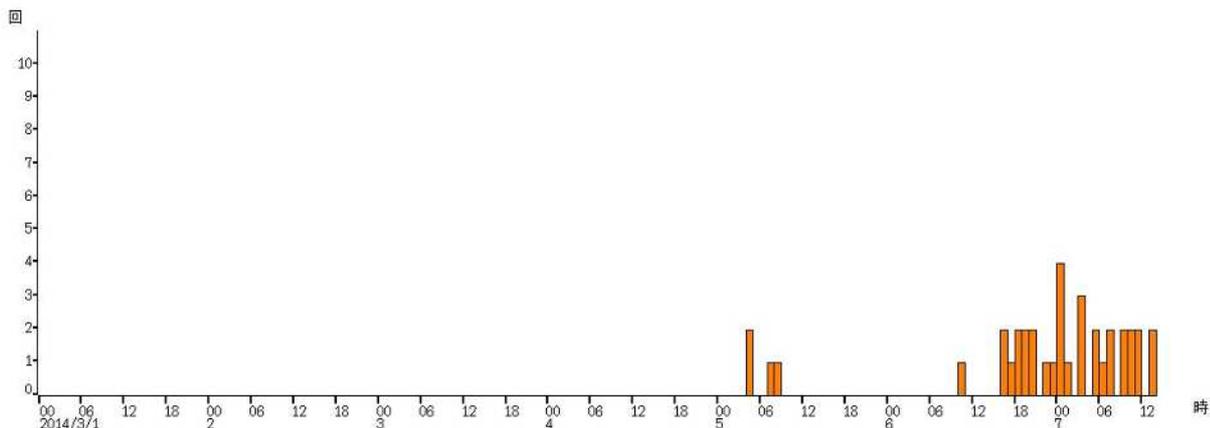


図1 草津白根山 火山性地震回数（2014年3月1日00時00分～2014年3月7日14時00分）
3月6日16時から7日14時までの火山性地震の回数は32回観測されました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、関東地方整備局、東京工業大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2万5千分1地形図』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

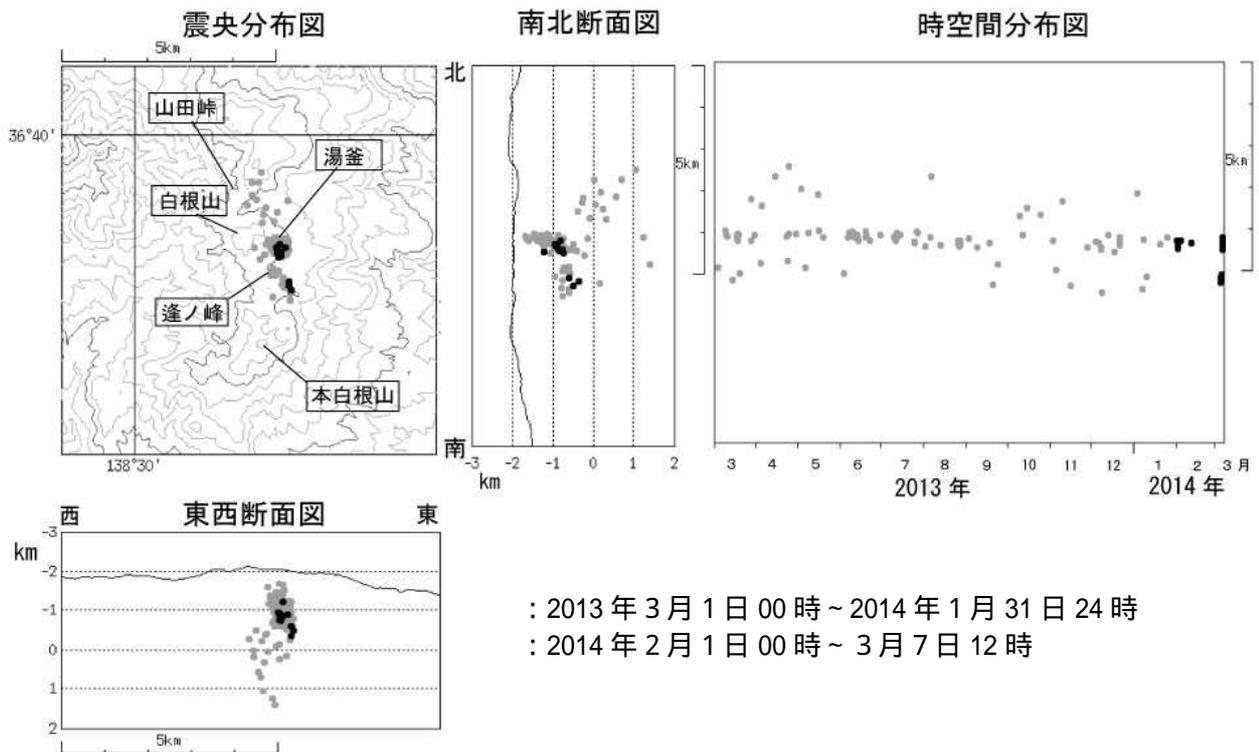


図2 草津白根山 震源分布図(2013年3月1日00時~2014年3月7日12時)
図中の震源要素は、一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

変更 ~ : 2005年1月21日~2012年2月29日 計数基準: 水釜北東振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 、S-P時間2秒以内
 変更 : 2012年3月1日から 計数基準: 水釜北東振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 、S-P時間1.5秒以内

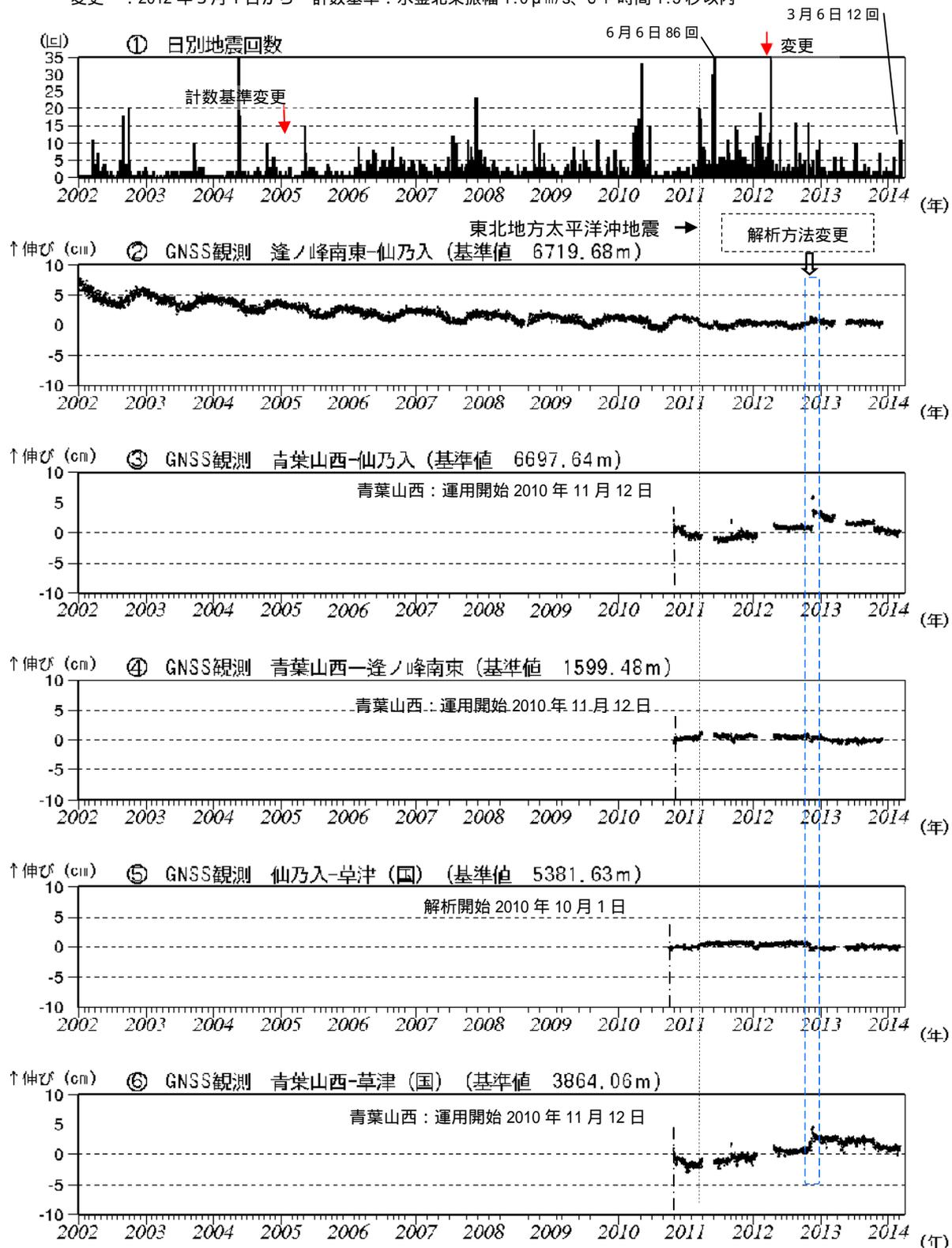


図3 草津白根山 火山活動経過図 (2002年1月~2014年3月6日)

山体付近で発生した地震の日別回数 (赤矢印は計数基準変更時期を示します)

- ・ 検測対象波形を変位から速度に変更 (変更 : 回数に差が生じないように計数基準を調整)。
 「2005年1月21日まで: 水釜北東振幅 $0.05 \mu\text{m}$ 以上、S-P 2秒以内」

~ GNSS連続観測による基線長変化 (国): 国土地理院

- ・ 2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
- ・ の基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。
- ・ には東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日)に伴うステップ状の変化がみられます。
- ・ ~ は図5の ~ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。
- ・ 青い破線で示したデータの乱れは解析方法の変更によるものです。

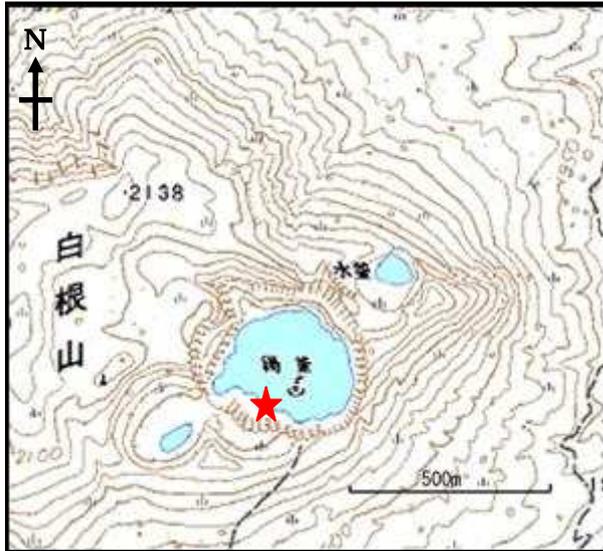
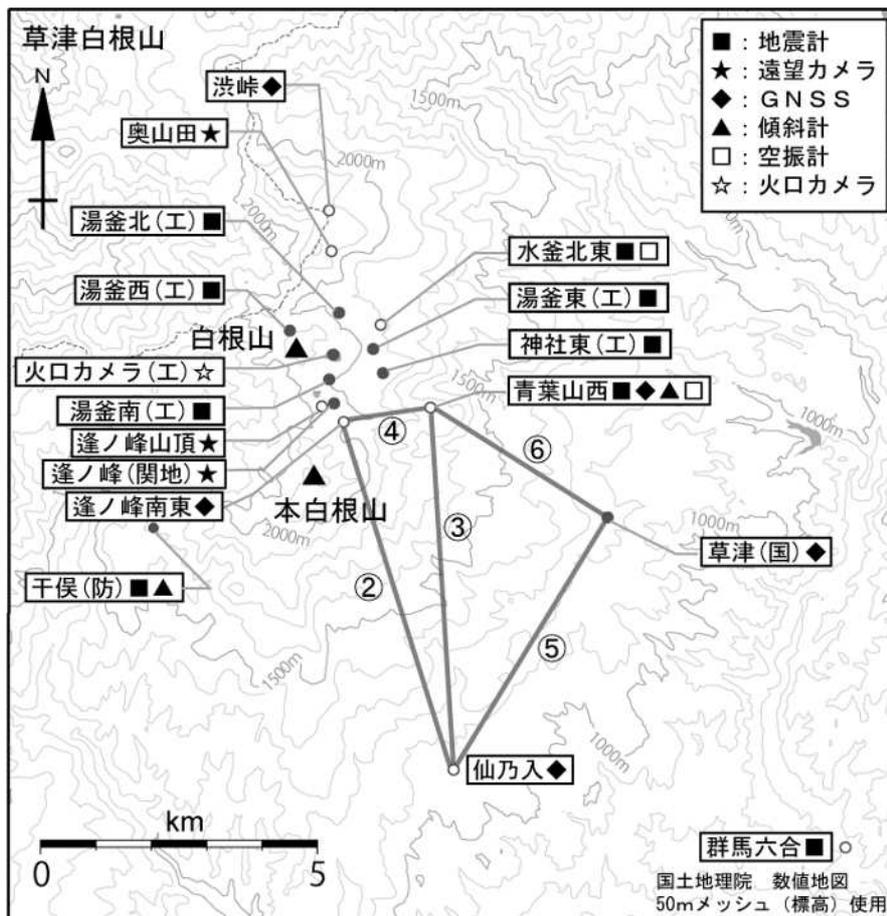


図4 草津白根山 東京工業大学の火口カメラの位置



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(工): 東京工業大学、(関地): 関東地方整備局

図5 草津白根山 観測点配置図

GNSS 基線 ~ は図3の ~ に対応しています。